

「莢数確保のための畦間かん水」・「適正な病虫害防除」・「早めの雑草対策」を徹底し、品質・収量の高い大豆づくりを目指しましょう！！

1. 畦間かん水

～開花期以降のかん水で、
落花・落莢、青立ち回避！～

- ・培土作業でできた溝と額縁排水溝は必ず連結して排水口につなぎスムーズに入水、排水ができるようにしましょう。
- ・開花期頃(全株数の40～50%が開花)から、9月上旬頃までの間に3日以上晴天日が続くと見込まれる場合は、積極的に畦間かん水を行い、落花・落莢を回避し、莢数の確保に努めましょう。
- ・畦間かん水は短時間で行い、ほ場全体に水が行き渡ったら水口を止め速やかに排水しましょう。※かん水時は暗渠栓を閉じましょう



葉が裏返った状態の大豆
(かん水が必要！)



帰化アサガオと大型雑草に覆われた大豆ほ場

2. 雑草防除

～難防除雑草の早期発見に努める！～

- ・培土後も残草が見られる場合は、雑草の種類や生育状況を確認し除草剤を散布しましょう。

○ 難防除雑草（帰化アサガオ類、イヌホオズキ類、ヒユ類）が増えています。
早期発見に努め、見つけ次第速やかに防除（手取り除去，除草剤散布）してください。

表 1 大豆の生育期処理除草剤

対象雑草名	薬 剤 名	使 用 時 期	使用方法	10a 当たり散布量	本剤使用回数
1 年生雑草	バスタ液剤 (非選択性除草剤)	本葉5葉期以降、雑草生育期 但し、収穫28日前まで	畦間・株間 処理	薬量 300～500ml (水 100ℓで希釈)	3 回以内
	ロロックス (非選択性除草剤)	本葉3葉期以降、雑草生育期 (雑草の草丈 15cm以下) 但し、収穫30日前まで		薬量 100～200g (水 70～150ℓで希釈)	1 回

※ バスタ液剤、ロロックスの散布は吊り下げノズルを用い、大豆に薬剤がかからないよう注意して散布してください。

3. 病虫害防除

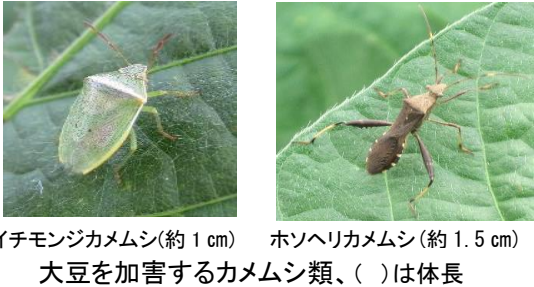
～適期の病虫害防除により、高品質な大豆に仕上げましょう！～

表 2 薬剤と散布時期の目安

防除体系	防除時期の目安		対象病虫害	剤型	薬 剤 名	使用時期	10a当たり散布量
随時	7月下旬～8月上旬 (葉が巻き始めたら)		ウコンノメイガ	粉剤	ダントツH粉剤DL	収穫7日前まで	4kg
				液剤	プレバソンフロアブル5	収穫7日前まで	4,000 倍 150～300ℓ
基本 (1回目)	莢が伸び きった頃	8月10 日頃	紫斑病	粉剤	Z ボルドー粉剤 DL	-	3kg
				液剤	プランダム乳剤25	収穫7日前まで	4,000 倍 150ℓ
			カメムシが多い場合 紫斑病 カメムシ類	粉剤	Z ボルドー粉剤 DL アルパリン粉剤 DL	-	3kg 3kg
				液剤	プランダム乳剤 25 スミチオン乳剤	収穫7日前まで 収穫21日前まで	4,000 倍 150ℓ 1,000 倍 150ℓ
基本 (2回目)	1 回目の 10 日後	8月20 日頃	紫斑病 カメムシ類 マメシクイガ	粉剤	トライトレボン粉剤 DL	収穫14日前まで	3kg
				液剤	アミスタートレボン SE	収穫14日前まで	1,000 倍 150～300ℓ

※ 防除の際は、農薬使用基準を必ず守り、風向き等に注意し、周辺への飛散防止に努めましょう。

- カメムシの加害が著しいと、大豆が青立ちする場合があります
- 8月下旬～9月上旬にカメムシ類が多い場合は「ダントツ剤」等で追加防除を行いましょう。



- マメシクイガは特に大豆連作ほ場で発生しやすく幼虫が大豆の子実を加害するため収量や品質に影響します。
- 被害の多い ほ場では8月下旬～9月上旬に、「ダントツ剤」又は「プレバソン剤」などで追加防除を行いましょう。



☀ 農作業の際は、適切な水分・塩分補給や こまめな休憩など、熱中症対策を徹底しましょう！